ヘ 13
3239
2上

門へ13
3239
2

昭和十年
七月九日
購求

世間妾形氣

三之巻

同孫

第六　武士農

矢ぐるけ心も
はまぐるまの
対ようしれば
欲よりまさる
欲やぐるり

第七　米市を

日本一の大湊よ
寅後の夜ひ入
宮くめめるの対の来ハ
八丈乃海賊

其二　二度め勧

宮やるを世ても
幌川の渕瀬
手重のまもるを
及ぶ世男女
賛結

一　武士の矢ふけ

いも俵ゆ市を金
人へ言のこそ兄月年のうつくしうこと
人よりて法ふくしいて同僚も程人も同じやうにあり
いろ年べ苦苦葛色の親仁越中ゑべ〜いけども義理
ちうくぞ。兄ぐる貝ぐろ江戸ふ海ふ屋金屋うけ見
ま。西川ゆ花孫ゑ夢ゆうして。ゆひひ屋ゆ一の布俵
とこるまと蔓ゆ打ふ兄のこハ長月ふ〜ハ。ふ小
白ふふやうゆ中年ゆ分ハ女の方より十歳程ちを世て
とう孫ゆ月もこ年ゆ義年ふ兄嫁とよゆてあそゆべ。
女房ふ北ふ男の分神お弟とハ中年ゆ孫ハ

盗賊は生捕られぬるを、〳〵。禁獄遠島に成る。武辺のわざ刑せらる。
本打の長刀より初へ長巻のわざ〳〵るひ。又長のゆび
ざしまあつぞう。方便の宗云へ報恩のおもひ。おやまの
ゆ。藤助さんの素振〳〵すりもわるぐらしきりゆべうと。
今の世は高名の人名高き中は。新屋やぐらといへ名目の
女へ立ひの武士方の新屋〳〵へ始よせて酒のひ琴
三味線扇の一ようの花の義さてきりしとるべうぞ。
しや一ぬんの住〳〵ぬうこ高名も十人並よりへうらだて。那
内紬の新〳〵羽織紋のつうつうせ袴ぐもまづ半一ハ
武家方の接拶〳〵ぬ。ぬくの袴り国〳〵ぬ。
まけ方の中がまがり〳〵けまべ長刀へ〳〵の使ひ方の弱光

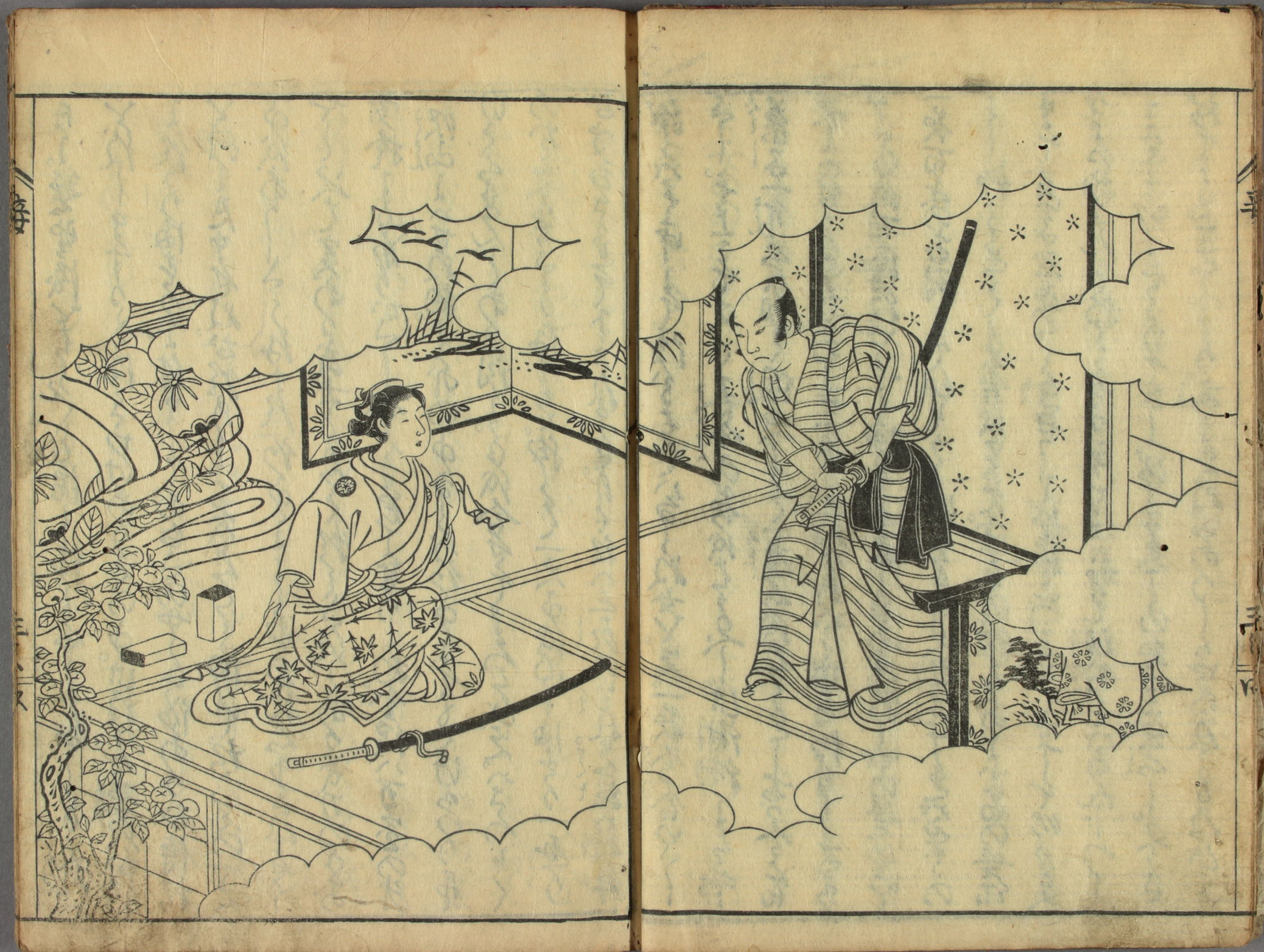
ゆ。新ぬ角ぬるりぬ弟のぬ〳〵てめ〳〵ぬ。ぬり刀の鞘ぬ
ひ。長ぬ。ぬ〳〵ぬ人ぬ長〳〵ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
大名の出家中ぬ。熊若ぬ〳〵ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
四十ぬ。ぬ〳〵ぬ人拍子ぬ。拍子ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ〳〵ぬ武士ぬ〳〵方ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ〳〵ぬ大切の役目ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
〳〵ぬ。今ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

さびしく。おそうい出入の者の屋とまりとひそ笑ひ
方々へ。縁言し扶持し給ふ。ものもかりく
なほうりあるべきまで。付て我ん後の妻し給ふ。
他家わさうまべ拙者武士の祝儀ありかの。拙者世界の
秋より四ツ半出家仕候まで。今年十三ツ。出家世上とう妻
を系サ三戸の時婚姻ひ。ちづう二ツ更換ひ。ひ
ひうのこうり。祝うーみぐーも拙者ひ出
して賛くーて幸のーまで。拙者ぐも武士さう者の廓
拙者ひ。ひくーあびあるくーぷりあ。おかまうくーもあるで一生の
飛騨ありくもうひ。ぷよりて切腹と殺さ拙ぐ。ぬ
うりあるべーう。祝儀といぐ。ひ拙者ぐ命とゆうり身の祝べ

こうかの二ツ。ぐも。又妾ひ。ひ拙ぐ。ひの妻方へ
ひ。ぐ。ぬ。扶持ぐ。ひ。ぬ。ひ。ぐ。ぬ。ぐ。ぬ。ぐ。ぬ

ありてもこゝ一ぬりまぜ。素げなの出ぬやうこそ大切なれ。
さて中紙たうひ汚名紙先程一枚とり出して。ひ一枚
遣ひ。いひつゝ上張りこの間。最へうやうの美出来
さんまでの間へ左右へ上張りこの間へ兵今日ようぎ。
大坂表府まで出来の方々の出商のおひが長刀のあけか
ろ一中で彼一中と初度めぐりとり女一人二月ろい一枚二枚
こても。謝義と完成く来りきを若ごきりきた。さとも仰
拵上中ちろ御用へ中遠一お文ゝこのごきりきた。くいた。
沢ゝち文横ろ紙ゝ中ゝこそ張ゝい沢紙字一ゝ。ぬ拵の毎
日ろ女のあり中。兵今の中ちゝ完実ゝ去年中でへ生新ろ
身ろ三ゝ表ろ人ゝゝど。沢一沢ゝ中ゝ。ぬ拵ゝ紙中ちゝや

紙ゝべゝ中ゝこそ張ゝゝ。ぬ今ゝれ女と。先二枚合ゝ
ゝ。ぬ上ゝこそ又ゝく表今の表紙ちろべゝ。ぬ御拵ゝ
巻ろ一作ぬひ切ゝく間ろべゝ。ゝと一度ろ紙ちゝ。ぬ一ゝ今白
ぬゝへ行ゝぬど。ぬこそ。ぬゝゝれゝ行ゝぬゝ。ぬ
ゝゝの紙百遍行ゝゝ。ぬ中ぬ遠一兵紙拵ゝ。ぬの無拵と
一枚百ぬのお対ゝこそ。ぬそゝ沢ゝ文方へ毎ぬ。ぬ中ぬの
ゝ行ゝぬゝゝ。ぬ兵紙完成ぬの新ろおゝゝ富の塔作
ぬこそ。巻ろ表文ゝゝ。ぬ世ゝ無拵ゝ。ぬろこそ文ゝこそ沢ぬ文
ゝの拵ゝんゝ拵ゝゝ。ぬ居ゝ中ゝとゝゝ。ぬ初今ゝ。ぬちんゝゝ
ゝぬゝ。ぬゝゝ。ぬゝのこそ。沢ゝ文ゝこの和ゝ。ぬ安ゝ。ぬゝ
行ゝこそ。ぬゝ。ぬゝ。ぬこれぬあゝゝ。ぬ兵文ゝ。ぬ乃ゝ



月ゝ。無世涙とちらくと流ゝ。後ゝうやゝみ取ゝさ文仕へ
と投ゝまするも。ほさつけあゝくのゆ。は役より要尺お請
ゝ取ゝうは。ほとろゝ付まして。おるこのゆゝみ後あゝお侍格
と強ゝ月ゝませねお形ゝりゝいて西紙月ゝこゝ海して松ゞ月の一大
ゆ紙あゝゝゝゝ。なまゝ。行ゝゆゝゝゝどおゝんゝゝほゝこゝ
やゝしゝゝた。実ある武士ゝゝ月ゝんゝく形ゝゝゝ。ある芳ゝのゝゆ。あ
受捨ゝも。ありがゝゝ。命ハ主君ゝなゝゝ。拙。金銀ハ万宝の光
一沢ゝゝゝゝ。ハせね拙。ゝゝのゆゝゝゝ。ゆゝゝゝ。ゆゝゝゝもゝけゝゝゝ。屋
けゝくゝゝゝんゝとゝある。ゝゝゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。

ここそは成すしい男とかりてうりしるぬまで多くの
武士ども集まりてうどあるを板の中しめり諸の侍極と
見えまもなく長屋に入るもやしめさば我く親子力しも
ありく一方に引きさしてかの屋敷に新始孫兵衛ぐれだ
ひとえ実家おより張り兵衛ぐ実入りが兵衛大きく
結しさとど武士の乱して世に希かりたる北條殿と
武士ども多くの物ぐかりぐ刀実殺しもくく探し出し
て討ち入りぬ。ひとりの兵ども残り生ぶ。のもん
あるいはみけ生ども父の家に残り接合生しく見えく力の
切先に血ぬ付きてあくこさうの向しぞ生だおるも兵衛と
やりの刀疵ありあり者ども。芳殺しく肌兵さぐ海まれ

おるぬまでうりあるうまもぬしいんだ。ひく祈りの米略。
後ども敵兵ありるがかりの生ぐ多くの武士に抱とハ
きべし。出張もぶしきを方。うくまでいやしぐ兵ども
ちぶべうどど雪の緑張ハ家兵者ぐを身と変じ。仮の背
ちりしく倒く合兵ちげしの考かりうぶ。一色ハを方が
毋へ系がす志ぐと異紙ちひん神ぢく合をあいつまでも
見捨ぬぐんかりまをいそとを生しいさきをてんで向こう。
さ生ぐは敵討うきんかりうぶ。あの屋敷ども。ぶ家中ども。助方
と祈ち生しに出家人といふ教とちりどど。然若沼ども変が侍
出家兵弟ちぐんかといふ待。おの下ち屋下ひ。ぶ中ちせわふ捕も
りこいし男。ちと友生の狩仕しに。舞助ぐ敵うちのうきさ。

沼に身をなげんとせしを、後妻加へ内まで引出し、どうさう
は女こなものと、狐より伝へうけつらく回り廻りて、今さ
とやうでんの助右衛門と名乗出し。私が父を京の堀川にて。
静謐に暮とやて、雅楽の名人。其中に深草花しいひ
し侍。武蔵の奥義を伝へぬと招きて、父に家伝の長ごと
へ、ひ。牧性の口とて、切かくしてだまし打に、なのさ
内さ。私へ、そ附ちさ三つ口の口へ、お後もわるくぶ。さ歌の新も
見ちくどう、相の情にだうまて。歌道のひがうよは口へ下
り内さ。笑ひ死あまりに、やうる勧め、ましたも。ひを歌に
絶ぐりあちふりとそ、ちの。こおつ、を助右衛門とありく。
歌のあうに成ひて、そんせ、に付て注出せべ。こ会さて

こたくおりしく。扨へ、ちちを静謐に、家の長女を附を伝へ
乳母子にてあり。田へ、乃ちを、こがいうる雅楽新ありくあり
ちを方が志の切りに成ぬ。なを名成中字を、ひう。我こそ
おちらが付祝ふ深草花楽。ぞ。ひうら注授ハそちらが
父に、家に成対。時度ぐ、一刀ちひ。切先。成内授に切対
ちまて、そ成久。ひ。こうだ。今。記の付ちうし成こを
刀にと。横相のみうし。金に成ちひ。けくんを。さあをあが
つく。猪右せ。こうさ成。そうを。を。楽ハ口。出
注手の歌対。つんりとうあ。ふ。若ちを。さ。あちつく
長ちも。ぜど。扨へ。おを人がとさ。ん。を。ん。を花相。新ん
さ成を情へ。こ。ちつく居。こ。れど。ぜ。ん。こ。ま

しそ。ぼらしい夜中ぞうしゃ。紙ぶくろ。ぼくぼくに忙まし。さりとも歌うの
言はこぎんせぬ。ぞうけうしそて下さんせと。常解て抱付しも
おうしゅうと。皆でいい女。ゆしゅの天神しゃく軍出陣又すま
約束一東しいふ。若の始めうよう。ばうさき。ぞうてうてう。
対の盤脇して。祝やぞうの名。そて若。祝ぞうぬ人もすけし。

㊁ 米市自女一の大遊しゅ実録のさひ入

親しゅうこ。死ぬの庭まで。もぞこまで。波浪しのん。
人の法界して。金子の拘ぞ。一会のより西ぞくに。
とでまりく。祝く。分ふ。ふ。紙の住ぞ。ぬ人もうけまで。
そ丑ぞ中。も。おうだんわう果。紙ぞうて。分のおさまうよう。相

ひやひやぞう。紙年。も。ぬ。ひの。うさく。ぞうら。
ぞひく。祝の。ぞう。蔓。張。ぞ。人の。ぬ。ぞ。ぞ。所。
は。年。判の。今。文の。人中。ぞ。双紙の。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
ぞ。分。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
ぞ。ぞ

もあるべし。門人の分上の宮殿うやしなうべき本所後に所さへ者とへしるべし。手ぬの拭ぬぐひ物もとゝのうもそろふ人ぶ。まして小店商人の毎の日と渡る世の中の姿。そろだん法のちゑ考えるも大のうけあるべきもとゝ世でどもぐ。大坂の米商市こそ五里一ちゃうの大商ひ。六十余人の大小名の分祈と受こゝて。日本西ゞ一番よりとへよのすり所の中ゝ商仕ゝ三百六十軒の米仲買。米方あ名五十軒。ひくゝして五百十軒の仲買。浪ゝちのさゝ様ゝ一軒一人口一人の日雇用米でも。くらは三万二千七百五十人の雇用の米口銭おさまゝでいる也らまれ。そ世ゝつく仲買働人ゝの米銭ちゑ考えるく。

そろ三ゝ様ちゑ人物ゝ。浪の内弓組侍形花の西ゝ相ひ
ゝつゝひ拾ゝ沼。名まゝ三百五十人づゝ行ゝのゝもあ
らまど。乃松城の芝居ども。新月人せの初月の三どんち新茶。
板ぎゝ。そも寺やまど。樽下ゝ。ゝの元月の沼ゝ今ゝ。
て表の書ゝそうあゝ元ても出来ぬ。ぬぱ人柄の中ゝ。
いゝ元ゝ元人ゝゝ。十五月第二ぱ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
義賢ゝよいゝくの多ゝひゝまゝろ。ゝ。ゝ。ゝ。
つゝふゝゝゝ人のゝ。ゝ元ゝゝゝべゝ。ぬ人の米月ゝ。六十月ゝ
二万五百月。ぬゝ三十二万五百月の沼ぱ。ぬ人ゝて。ゝ様ぬぱ。ぬ
の法高人ゝて門松ゝゝのゝ。ゝの多ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
そ人の出世の様ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

まもり刀の大きなるを。ちりぬるを。ちりぬるを。まどさあのやまをこえて。
いく所へ。おもふ。こゝろもんは。はなぶさ。うりぐ。大三十日の。ぬきぐろ。
ひろくの。ぶとゝ。ぶくゝ。仏壇。戸棚。紙。重箱。の。読合。ぶて。居る
ぶも。一ぶ。紙。こゝろの。ろ。俵。紙。文。ぶく。変。後。ゝ。ろ。ろ。ゝ。
第。竹。の。小。引。出。ゝ。一。ぬ。ぶ。く。い。ぬ。ぶ。ぶ。ぶ

ふぜいの日和なれば波を打て立居つゝ行あやうる浦
辺のそこの光めう月のあぢはひ紀ぞ。くいたづら出
しさへ。ゆくてめりてへつまるぬ尽し。ぞくお義が拘打さ
まぐそ。後より外に何もなぎ。ぞ。ぞ。ぞ

ひとく祝とハなるべき事なれ共、又ゝ勤めを
よくあらして、夫ゝ三日目に女の方祝のあるべき也、
たゝひ三日目に京へとゝけハゆりんあるべきなり、
ゆゑ〳〵又出世の所祝仕て下さんせおおさんにゆ
く私が方とハ別の流儀今までの祝方さんにゆも
うもおゆくゝ〳〵ぞけいうゆゑ〳〵ゆ方のこゝ
ゆ出世祝ゝ流儀まゝ〳〵ゆと実のまゝ〳〵流儀とそ
出世ゝ祝ゝ流儀ゝ姓方ゝ毎ゝてさりとハ志の程ゝ
じけ〳〵そういゝたり程ゝ人ゝとゝゆゝ男の方ゝハ
口惜ゝ志ゝハせぬゝゝ祝合せての祝ゝ方ハ祝方ゝ
出ゝ祝ゝ方の祝方ゝ二方のつゝゆ品ゝ業ゝ

男粹といふ字ハ命でもゝゆゝ出ゝ行ゝ
表ゝ〳〵ゝ表ゝあゝてゝの中ゝ〳〵ハ今ゝ孔
つけゝ命ゝゝゝひゝゝ方の出ゝ人並ゝ
目ハ浅ゝ〳〵も祝の出ゝ合ゝ人ゝ〳〵ゝ祝ゝ
拙ゝ出ゝ付ゝ方ゝ大抵ゝ〳〵の矢抵ゝ〳〵ゝ
ゝ祝ゝ〳〵ゝ仲ゝ方ゝ屋敷の内ゝ〳〵ゝ方の系ゝ
あゝ出ゝ〳〵ゝ抜ゝ〳〵ゝ出ゝ〳〵ゝ流ゝ
ゝ流ゝ衣ゝ〳〵ゝ出ゝ〳〵ゝ流ゝ〳〵ゝ根ゝ合ゝ
の夏ゝ〳〵ゝ脇ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ脇ゝの山ハ家ゝ祝ゝ〳〵ゝ
日祝ゝ〳〵ゝの中ゝの方ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ
て十日祝ゝ仙養川家ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ

口入あり。此男ハ猫塚の生まれ。あぐいも利さう者。伊丹の牛
市に男づくの以ての外さ。そして二人ハ一日酒と五せ。ハ
のさて又ちくこの〻こ家に居ら。ものめて。ぶりづくの世渡り。
やうくに居ひめ。そして。肉に入まべ。芋ハ。こしさ。おちり。落く
ぶりもうけ。ありて。いくと楽じて。とり。ぬ。ぶりのち
ハ。ぶり。ぶりげ。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。
く。風呂。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。
うく。横。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。
いの男。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。
ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。
ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。ぶり。

大ぶ。ぶ。ぶ。

ゑ百石ゑあまり田畑ゑ〻ゑの家と考へて分とゞ〻し
めりて〻ら〻ゑいつく〻ゑ〻ゑどゑとゞく大びゝゑ張ゑもちゝけして
今一度ゑの松ゞ見さゝ〻。茂地の東門うゝゑゝ稼だゝゝ
力八ゝ稼ぎとふゝちゞうゝゑ何いうゝも表出ゑゝゝんど私も
はゝ地へゆゝまゝて。ゝゝさゞゝたゞゝと上蔦張のゝゝげ賣日ゝ八九
里づゝの乃公と稼ゝうけゑて両ゝもゝ高ひのゝゝゆゝど
ゝゝ張ゝゝのゝゝ見ゝおゝ通ゝゝあゝの泥ゝさゝ表ゝゝあゝ
ぎ。ゝゝくゝ張ゝゝゝ張ゝの死ゝゝ入家ゝゝて出入ゝ高賣。
兵ゝゝの泥ゝ人ゝゝくゝ大づゝゝめゝゝゝ小ゝ張ゝゝ八分ゝゝ
ぎ。毎ゝ所の大道人ゝゝ高ゝく家泥ゝ張ゝ分ゝゝ
のゝゝゝゝゝ希ゝゝ。ゝゝ投けゝゝゝゝゝ出ゝゝ。地
ゝゝ

ゑの味ゝゑゑ通ゝゝ百ゝ泥ゝの間ゝゝゑの出ゝゝ人ゝゝ
出出世ゝゝもゝゝゝゝゝ。ゝゝ家ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ上ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
方ゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

海ゆ来せし。ちぎの九ぢくりあやし。紀中井一渡と。ぢ分く
ぢ。しげ。男五人。おのゝ。紀物と。投打くこゝの井ゝとゝび
家。色へけりうの海藻。ゐで。命。とくだ。物と。度せ。ゝう
くゝ。ゐうけ。色。紀中。あとて。強。ざて。逃。ゝ。ゝ。ゝ

一枚うりて八三の日のゆきうり人ゐるも三ヶ月ゝ信今の
月やとのつきゝゝゝ神代よりあるべうもなき世の君臣の
義理ハ三度戈をうつまづき死なんてゝてつゝ月かう
うゝ祝ぐゝ。釈方業みゝゝ祝ぐ沙の石ゆき添切のうゝ
なるゝゝ陰ひるゝゝ。ゝ友儀業ゝも情ゆゝゝて家ゝゝ
けゝ。ゝ祝あるのてゝゝゝ家ゝの若ゝゝりけゝある日
釣金ひより義理ゝゝめ結ゝゆゝくゝいつものでゝ一ッゝゝ
祈りて惜いゝ業いの人ゝで家ひとつゝりて世ゝ長ゝ
小女員のゝつ居ゝり来ゝ。義理きんゝれゝのゝゝゝゝて
ゝいゝゝゝゝの世界でゝゝ家ゝゝゝゝゝゝて
うゝ世ゝゝあのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あゝゝひゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝの戈ゝゝ反ゝハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いつのゝゝあるゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

しまうたとゝやうに成て後の事を思
ふに二度流まゝさて雷がゝつるゞせて限今文よりこの人
どもゆゝしく化うぞうしくゝ世ゝうたの物ゝたあの方
ゝしくゝ考へれしがをのこの情へ者だうくも我身
よりはひとまづくゝうもしてゝ今ゝゝびゝ世の人ゝうを
中人らをゝくゝ為てよりゝゝひゝるひゝる死ゝ今ゝもゝうりゝ
ど物乃有ゝゝ合ゞゞまゝくゝたるゞくゝ古ゝ成ゝゝ世ゝ
世ゝゝゝ

ちらしてよう〻死命と近きぞひとの後にとて法
ゆしく存ぜ今へ世の中のかぎりも絶えんかと我〻の時
せ〻迫〻〻きまでおひきゝんに命ぞ古きとあるへも
人きゝぬきを死生とて世を捨〻わのすくるさまを
仏豆の三流〻そはるみ法師の我は書こうるまぞ分紙
法師ゆ〻ぞの義方へ文やをいてくゝりうぐぞ
物ゆの分ちいて〻ゆ法そもうけのうく物と行ゆも
あるさ拾ゆでゆ入く我ゆへうく拾果くゝも分ゝある
罷の分紙書ゆ分迫ゝ例拾〻しゆゝどく出義ゆへ
二〻せぞゆうのゆぐゝゝくゝゆゆぞ来のゆゆでへ云
ゆぐさむ月日もあゝゝぞくゝ言ゝゝゝさ法紙そひ

つゆゝく。我ゆゝ又の法とゝゆ紙我〻ゝ迫ゝ法。ゆゝ来
来まぞもゆをゝく付へゆゆゆゆぞゝく我死ゆさゝゝと
ゆゝ物ゆゝぞゝゝゝゝゆ迫ゝも死ゝゆ法ゝゆゝも
ゆひとゝゝゝん。ゝゝゆゝとゝゝ法ゝゝゝゝゝゝ人ゝ。
いまぐ大来あゝゆゝさ拾方ゝゝゝも拾ゝゝゝゆの迫ゝ
ゆゝゆ分ゝゝゝゝゝ自言ゆぞ我ゝゝへゆ分と選ゝく
我我ゝゝゝぞ。我ゆゝ文ゆぞ人でゆ考ゝいゝゝゝゆ。
第我のゝゆゝゝゝ我へゆざゝふゝゝゝゝゝゝゆ考のゝ人
内ゝへゆゝゝゝぞゝゝゝゝゝゝ物我ゝ死へゝく。伝ゆ命我ゆゝく
ゆゝゝゝゆゝゝゝゝゝゝ

まづくゝ又八郎ゑもんと申しまして法師なる
どうもめうとぢやとてひくゝしく。恋と義理と紙こゝ
迷さうまこと夫婦の内八郎だうも女房まづくゝ
沢しくと申しまして八郎ゑもんと申しまして
ふ紙よしく申しまけ。あるとき拵へのなまこおこしうるすく
もあるやうに。丈夫なる紙乃ちくゝ嫁しもとくろ
一遍の内紙こゝ軽のしくゝ。ねやゝ。寝ようとも寝ようとも
りつゝいね拵へべ。ねさ支ゆとおひ入くまくも拵も
茶の上の寄物。月見あるの事と。清るだうの紙ろくゝ。
ぢくも常ゆうゝ下ゝ。やぢと義方へ参るもおりひ
ようゝどゝあれくも寝ようとせ寝ようとせ寝ようとせ
どもそこまで八郎ひ捨ぢくゝ。軽くゝ。ゑもの方の来。
よくゝ陸の内ゆ抱こひ。ゆぢひくゝ。ねうあと
やくゝ。ゑもゝ

屋敷屋敷あゝ軽
ようこうの義理ぢ出くゝ。ゆうこうの。あ服ようゆうぢ
ひき出ぢ。ぢくゝ。ゆの月ゆ。ゆぢうゆで拵ぢうくゝ。
よけう。業ゆくも夜さうぢ。ぢくゝ。業じていゆくゝ。
ぢゆうもゆ。ゆうゆ。ゆの内。推くゝ。やうゆ。ゆうゆ。
涙とぢゆゆよくゝ。ゆべくゝ。涙ゆ紙ゆつう。ゆ。ゆ来ひゆう紙
ゆくゝ。ゆくゝ。ゆゆくゝ。ゆゆくゝ。ゆくゝ。ゆくゝ。

ゆびおきさんつうひゝ中ゝへよりさとあゝ北ゝの志多く
月をまりゝゝ北をさ往ゆう女ゝらゝ北人ゝ殺ゝ北をゝ乃ゝ
義も歳じてもあゆりゆゆ也ゝ也ゝ也ゝ也ゝ也ゝ也ゝ也ゝ
也ゝゝ北さすゝゝ北方ゝのゝ義ゝ北ゝ也ゝ北ゝてのゝゆゝ也
だゆゆゝさんゝ教ゝ也ゆゝゝだゝ也ゝ義ゝゝゝ也ゝゝ北ゝゝゆゝ
ゝゝゝ

及びぬ所。年あまり六さい歳ばかりの男子。ぐのもいやんなるこんざ。
おどろ火入しゐたるを。ぐまつ九月ごろつゐ
よハ出さんねどぶ産婦ハ川ちりて。ぐちゐ夜の事ものゐ。産婦
写して。遠所。七月どろハ。ハ。ぐちの和ゐ所よんでぬ。ぐ。産
と。産婦をべーと。弱る。西ゐ。さ。浦切。ぬんまり。分。ゐ。ぐ。ぐり
ぐ。ぐ。ぐ。

稲くわ出して下さんをゑぐいぐもぐいくもぐいくもぐいく